

氏 名 三島 郁代  
学位記番号 医博乙第243号  
学位授与年月日 平成18年4月12日  
審査委員 主査 教授 高島 利一  
副査 教授 吉村 安郎  
副査 教授 津本 周作

### 論文審査の結果の要旨

胃食道逆流症（GERD）には、胸やけなどのGERD症状があるにもかかわらず内視鏡検査で逆流性食道炎を認めない内視鏡陰性GERDと逆流性食道炎を認める内視鏡陽性GERDがある。欧米人では内視鏡陰性GERDがGERDの半数以上を占めるとされるが、欧米人と比較して酸分泌が低い日本人における内視鏡陰性GERDの頻度については十分に検討されていなかった。今回、一般住民に近い集団と考えられる健診受診者2760例を対象としてGERD症状と内視鏡的な逆流性食道炎の有無を前向きに検討した。GERDは受診者の17.9%にみられ、このうち内視鏡陰性GERDが61%で、本邦においても多くの内視鏡陰性GERDが存在することを明らかにした。また、多重ロジスティック回帰を用いて検討し、内視鏡陰性GERDでは食道裂孔ヘルニアのみが有意の危険因子であり、内視鏡陽性GERDでは男性、食道裂孔ヘルニア、胃粘膜萎縮が軽度であることが有意な危険因子であることを示した。さらに、餅、饅頭などの日本固有の食品がGERD症状を増悪させることも明らかにした。本研究は、日本人においても内視鏡陰性GERDがGERDの半数以上にみられることを示し、GERD症状の発現に食道裂孔ヘルニアの存在が重要であることを明らかにした、臨床的に意義ある論文と認められる。